



開館15周年記念

現在地:

未来の地図を描くために

現在地[1]

2019年9月14日(土)

～12月19日(木)

現在地[2]

2019年10月12日(土)

～2020年4月12日(日)

展覧会名	開館15周年記念 現在地:未来の地図を描くために
会期	現在地[1] 2019年9月14日(土)～12月19日(木) 現在地[2] 2019年10月12日(土)～2020年4月12日(日) ※会期中に展示替えあり 前期:2019年10月12日(土)～12月19日(木) 後期:2020年2月4日(火)～4月12日(日)
休場日	毎週月曜日(ただし、9月16日、23日、10月14日、28日、11月4日、2020年2月24日は開場)、 9月17日、24日、10月15日、11月5日、12月20日～2020年2月3日、2月25日
開場時間	10:00～18:00(金・土曜日は20:00まで) ※チケット販売は開場の30分前まで
会場	現在地[1] 金沢21世紀美術館 展示室7～14、交流ゾーン 現在地[2] 金沢21世紀美術館 展示室1～6、長期インсталレーションルーム、交流ゾーン
料金	●「現在地[1]」観覧券 一般:1,200円(1,000円)、大学生:800円(600円) 小中高生:400円(300円)、65歳以上の方:1,000円 ※この観覧券で現在地2[2019年10月12日(土)～12月19日(木)]にもご入場いただけます。 ●「現在地[2]」観覧券 一般:450円(360円)、大学生:310円(240円)、小中高生:無料、65歳以上の方:360円 ●「粟津潔展」と「現在地[1]」との共通観覧券[9月23日(月・祝)まで] 一般:2,000円(1,600円)、大学生:1,400円(1,100円) 小中高生:700円(600円)、65歳以上の方:1,600円 ※( )内は団体料金(20名以上)及び前売り券の料金 ※現在地2の前売り券はありません。 ※市民美術の日(オープンまるびい2019):11月3日(日・祝) 金沢市民及び富山市民の方は「現在地1」「現在地2」を無料でご覧いただけます。(要証明書) ※美術奨励の日:10月12日(土)、11月9日(土)、12月14日(土)、2020年2月8日(土)、3月14日(土) 金沢市民及び富山市民の方は「現在地2」を無料でご覧いただけます。(要証明書)
主催	金沢21世紀美術館[公益財団法人金沢芸術創造財団]
お問合せ	金沢21世紀美術館 TEL: 076-220-2800

本資料に関する  
お問合せ 金沢21世紀美術館  
事業担当: 黒澤、中田、野中、山下、高橋(洋) 広報担当: 石川、落合  
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1  
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802  
http://www.kanazawa21.jp E-mail: press@kanazawa21.jp



## 展覧会概要

## コレクションを通して捉える、「現在地」

今年10月、金沢21世紀美術館は開館15周年を迎えます。2004年の開館からこれまでの間、同時代に生きる作家の作品や活動を取り上げ、世界の「今」を見つめ、芸術表現の調査研究、展示公開を通じて、その豊かさや可能性を知るべく、芸術的考察に取り組んできました。展覧会はもちろんのことですが、美術館の核を成すコレクション（収藏品）の構築は、金沢21世紀美術館がどのような「美術館」であるかを示すものとして、もっとも重要な美術館活動として取り組んできています。

展覧会「現在地：未来の地図を描くために」は、美術館のコレクションを中心に、私たちの未来を見つめるために立つ、今ここを「現在地」として、時代と共に歩んでいく同時代を生きる作家による世界への眼差しを捉えて紹介するものです。開館からわずか15年間ではありますが、世界では加速度的に変化していくようなさまざまな出来事がありました。その間に収集した約4,000点に及ぶ作品の数々は、20世紀終わりから21世紀の今日までについて、芸術的なアプローチから語ることができます。

開館当初のコレクション作品を俯瞰して導いた「移動・横断」「非物質性」「協働・参加」「生成・生態」「日常性・個別性」「引用・複製」という6つのキーワードは、今日において少しずつその意味が変容しています。人々の移動はますます常態化し、生き物の細胞レベルまでデザインや編集が進む世界に生きる表現者たちは、どのような未来の地図を手に入れて進んでいくのか。現在地 [1] (9月14日～12月19日) においては約50作家の約70作品を、現在地 [2] (10月12日～2020年4月12日) においては約60作家の140作品をご紹介します、芸術によって認識する、私たちそれぞれの現在地を明らかにしていく機会としたいと考えています。

黒澤浩美 (チーフ・キュレーター)

## 展覧会の特徴

## 開館以来、15年ぶりに展示公開する作品や、収蔵後に初めて公開する作品

金沢21世紀美術館がこれまで15年の間に開催してきた展覧会において、話題になった作品が再びお目見えします。エルネスト・ネット《身体・宇宙船・精神》、マチュー・ブリアン《SYS\*017.ReR\*06/PiG-EqN\15\*25》、クリス・バーデン《メトロポリス》、エル・アナツイ《パースペクティブス》など、話題を集め人気となった作品に出会えます。また、田中敦子《作品》(1968年)、小谷元彦《ドレイプ》(1998年)、西山美なコ《Untitled (PW-970508)》(2000年)など、収蔵後に初めて公開するコレクション作品もあります。



クリス・バーデン《メトロポリス》2004  
photo: KIOKU Keizo  
© Chris Burden Estate  
※現在地 [2] のみ

## 世界的に活躍する作家の作品を多数紹介

当館は開館前の2000年から20年にわたり約4,000点の作品をコレクションしてきました。現在地 [1] ではコレクション作品を軸にしながら、当館では初展示となるエリアス・シメ、ジュディ・ワトソン、ムン・キョンウォン&チョン・ジュンホやティファニー・チュンといった世界の第一線で活躍している作家の作品を多数紹介。演劇ユニットPort Bを主宰する高山明が、世界各所にあるマクドナルドを大学に見立て、知のベルトを創出しようという壮大なプロジェクト《マクドナルドラジオ大学》が登場します。また、ゲームの分野で発展する思考や感覚の拡張やネットワーキング、バイオテクノロジーに言及するアートなど、実験的・先駆的な作品を紹介します。

現在地 [2] では、当館コレクション作家の塩田千春（後期）と照屋勇賢が当館の展示空間に合わせて新作を発表します。毛利悠子（後期）は交流ゾーンの空間に合わせた新作、ミヤギフトシ（後期）は当館コレクション作品とのコラボレーションで構成する新作を展示します。

## 工芸都市金沢ならではの作品が一つの展示室に集結

2009年にユネスコ創造都市にクラフト分野で認定された金沢は、数多くの伝統工芸が現在も人々の暮らしに息づいています。現在地 [2] では当館がコレクションする工芸作品を一つの展示室で多数展示します。「雲龍庵」北村辰夫や山村慎哉などの漆や貝を用いて制作される蒔絵や、大樋陶冶斎（十代長左衛門/年朗）の大樋焼、見附正康や上出長右衛門窯+丸若屋らの九谷焼など、藩政期に石川県で始まった伝統的な技法を用いて制作される創造性に富む作品や、田嶋悦子や桑田卓郎など素材の可能性を追求し、工芸の領域を広げる独創的な作品など、歴史と伝統を重んじつつ、革新につなげようという精神を継承したコレクションをご紹介します。茶室をイメージした一角に茶道具を展示し、工芸品として実際に使用している様子がかいま見える展示も予定しています。

### 出品予定作家 (50音順)

#### 現在地 [1]

エルネスト・ネット、エリアス・シメ、オラファー・エリアソン、風間サチコ、ゲルハルト・リヒター、ジャネット・カーディフ&ジョージ・ビュレス・ミラー、ジュディ・ワトソン、高山明、ティファニー・チュン、ヒワ・K、ムン・キョンウォン & チョン・ジュンホ ほか

#### 現在地 [2]

安部泰輔、イ・ブル、泉太郎、「雲龍庵」北村辰夫、エル・アナツイ、大場松魚、小谷元彦、大樋陶冶斎（十代長左衛門/年朗）、上出長右衛門窯+丸若屋、クリス・バーデン、桑田卓郎、塩田千春、田嶋悦子、田中敦子、寺井直次、照屋勇賢、金氏徹平、北出不二雄、草間彌生、久世建二、十一代大樋長左衛門（年雄）、トーマス・ルフ、中川衛、中野孝一、中村康平、中村卓夫、奈良美智、ホンマタカシ、前史雄、マチュー・ブリアン、見附正康、ミヤギフトシ、毛利悠子、山村慎哉、ヤン・ファーブル ほか

※出品作家は変更になる場合があります。

## 広報用画像

画像1～7を広報用にご提供いたします。ご希望の方は下記をお読みの上、広報室へお申し込みください。 Email: [press@kanazawa21.jp](mailto:press@kanazawa21.jp)

## [使用条件]

※広報用画像の掲載には各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。

※トリミングをご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報室へお送りください。

※アーカイヴのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。

以上、ご理解・ご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。



エルネスト・ネット《身体・宇宙船・精神》2004  
© Ernesto NETO  
photo: FUKUNAGA Kazuo  
※現在地 [1] のみ



《パースペクティブス》2015  
© El Anatsui  
photo: KIOKU Keizo  
※現在地 [2] のみ



ジャネット・カーディフ&ジョージ・ビュレス・ミラー  
《驚異の小部屋》2017  
© Janet CARDIFF & George Bures MILLER  
photo: KIOKU Keizo  
※現在地 [1] のみ



「雲龍庵」北村辰夫《更紗蒔絵十字架》2007  
© Unryuan, KITAMURA  
photo: WATANABE Ōsamu  
※現在地 [2] のみ



上出長右衛門斎+丸若屋《饜饀 お菓子壺 花詰》2009  
© Kamide Choemon Gama  
© Maruwakaya  
photo: SAIKI Taku  
※現在地 [2] のみ



田嶋悦子《Cornucopia 02-XII》2002  
© TASHIMA Etsuko  
photo: SAIKI Taku  
※現在地 [2] のみ